

教材分析シート

(5) 年 (花) 組 授業者 (中村 臨太郎)

教材名

手品師 (文溪堂)

内容項目

正直・誠実 A (2)

ねらい

葛藤の末に、男の子との約束を優先し、次々と素晴らしい手品を演じた手品師の姿を通して、いつも誠実に、明るい心で楽しく生活しようとする道徳的心情を育てる。

① 主人公

(道徳的に最も大きく変容した人物)

手品師

② 助言者

(主人公の変化に重要なヒントを与える人・モノ)

男の子との約束

③ 場面分け (主人公を主語にして分ける)

Before (道徳的な変化前)	手品師は、軽い気持ちで明日男の子に手品を見せる約束をした。
助言者の登場	手品師は、友人から明日の大劇場の出演依頼の電話を受けるが、男の子との約束を思い出し、葛藤した。
転 (道徳的変化) After (変化後)	手品師は葛藤の末、男の子との約束を優先し、素晴らしい手品を演じた。

④ 一文読み (要約)

売れない手品師が大劇場に出演するチャンスを得るが、男の子との約束を思い出し、葛藤の末に男の子との約束を優先し、男の子の前で次々と素晴らしい手品を演じた話。

⑤ 発問 (3種類の質問)

Before の発問 (道徳的問題を明らかにする)	→ 内容理解の発問「主人公の道徳的問題は何か？」 もし、自分が手品師ならどうしますか。
「転」又は After の発問 (主人公の気づきに迫る)	→ 中心発問「主人公は何に気づいたのか？」 手品師が、男の子に次々と素晴らしい手品を演じることができたのはなぜでしょう。
補助発問 (あれば)	
価値追求の発問 (道徳的価値をおさえる) (テーマにかかわる発問)	→ おさえの発問 (「〇〇って何だろう?」、手紙、ふり返り等) 手品師は何を大切にしたらどんな生き方をしたのでしょうか。

